

〒212-8557 川崎市幸区大宮町 1310
TEL. 044-520-0100/FAX. 044-520-0103
URL <http://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

2025年3月25日(火)14:00 配信

報道関係・音楽関係の皆様



真夏のオーケストラの祭典「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025」 17日間・18公演の全ラインアップを発表！

ミュージア川崎シンフォニーホール(神奈川県川崎市幸区大宮町1310)は、2025年7月26日(土)~8月11日(月・祝)の17日間にわたり開催する真夏のオーケストラの祭典「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025」の全ラインアップを発表いたします。

フェスタサマーミュージア KAWASAKI とは、ミュージア川崎シンフォニーホールと川崎市が主催し、開館翌年の2005年から毎夏に開催している音楽祭です。開催21回目を迎える2025年は、「夏にや祭り。祭りにやミュージアを。」を合言葉に、充実のコンサートをお贈りします。音楽祭の中心となるプロ・オーケストラ公演では、川崎市フランチャイズオーケストラの東京交響楽団をはじめとする首都圏10団体に加えて、首都圏外からは「九州交響楽団」が初登場、全11楽団が日替わりで競演します。

このほか、恒例のパイプオルガン公演、ジャズ公演、子ども向け公演、市内大学公演など多彩なラインアップでお届けします。また毎年ご好評いただいている公演前の「プレトーク」や「プレコンサート」、音楽祭の期間中に近隣提携店舗で割引やドリンクサービスなどが受けられる「パートナーショップ」、名物新聞「ほぼ日刊サマーミュージア」など“音楽祭をもっと楽しむ”ための企画も満載。さらに新たなキービジュアルにちなんで、期間中に浴衣でご来場の方には特製ステッカーを進呈します。チケットは4月24日(木)より一般発売、この夏もぜひサマーミュージアをお楽しみください。

- ・フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025公式サイト <https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>
- ・お問合せ:ミュージア川崎シンフォニーホールチケットセンター 044-520-0200(10:00~18:00)

「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025」3つの注目ポイント >>詳細は P.3~

Point 1) 新時代の才能が台頭！各楽団シェフ級も大曲で競演

Point 2) 九州交響楽団が初登場！

Point 3) 家族向けオーケストラ公演を新設(4歳~)、恒例ジャズ、オルガン、バレエ公演も

【本資料に関するお問合せ】-----

ミュージア川崎シンフォニーホール 事業企画課 佐藤 044-520-0100(代) / press@kawasaki-sym-hall.jp

>>プレス資料ダウンロード <https://link.directcloud.jp/eKgYnO1Q3N>

パスワード: FSMK2025 (使用期限 2025/8/31まで)

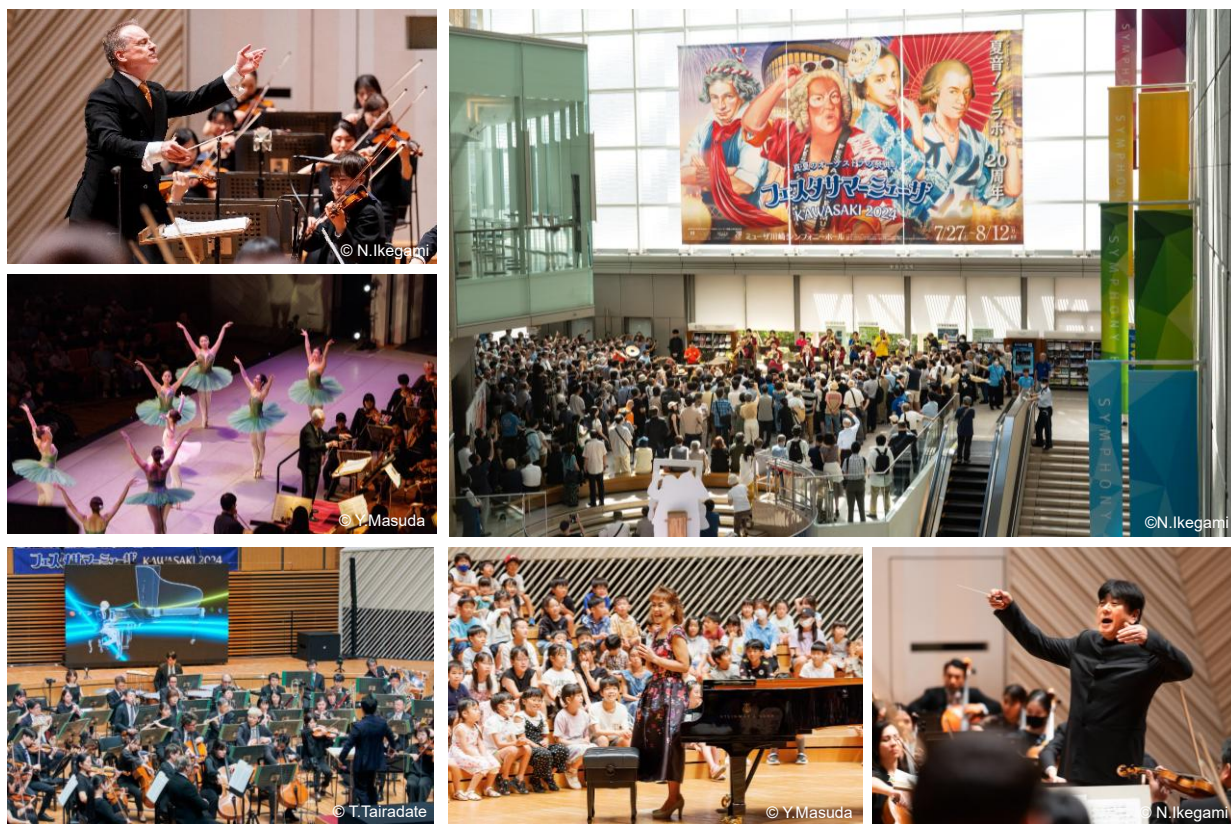
フェスタ サマーミュージーザ KAWASAKI とは

フェスタ サマーミュージーザ KAWASAKI は、川崎市とミュージーザ川崎シンフォニーホールが主催し、開館翌年の2005年から毎夏に開催している音楽祭です。日本トップレベルのオーケストラの祭典として今年で21回目を迎え、また川崎市内にある2つの音楽大学、ミュージーザが誇るパイプオルガンの公演や、子どもたちを対象とした公演、バレエやジャズなどを加えバラエティ豊かなコンサートをお贈りしています。

クラシック音楽の「新しい聴き方・楽しみ方」を提案し続けてきたサマーミュージーザは、毎年約3万人が訪れる一大イベントに成長し、「音楽のまち・かわさき」を代表する音楽祭として、地元川崎市のみならず全国の音楽ファンのみならずから愛されています。

2021年、第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門《功労賞》を受賞。

➤ フェスタサマーミュージーザ KAWASAKI 公式サイト <https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>



フェスタサマーミュージーザ KAWASAKI 2024 の様子から

1 フェスタ サマーミュージーザ KAWASAKI 2025 開催概要

[イベント名称] フェスタ サマーミュージーザ KAWASAKI 2025

[会 期] 2025年7月26日(土)～8月11日(月・祝) ※17日間

[会 場] ミューザ川崎シンフォニーホール(16公演)
昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ(2公演)

[公 演 数] 全18公演 (プレイベント除く)

[主 催] 川崎市、ミュージーザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

[共 催] 昭和音楽大学(出張サマーミュージーザ@しんゆり!公演のみ)

[後 援] 川崎市教育委員会、公益社団法人日本オーケストラ連盟、J-WAVE、TBS ラジオ

2 2025年の合言葉は「夏にゃ祭りを。祭りにゃミュージザを。」

開館翌年の2005年からスタートした「フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI」は今年で開催21回目を迎えます。

新たなキービジュアルのテーマは、“浮世絵×クラシック”。西洋でクラシック音楽の基礎が生まれ発展していったのと同じ頃、日本で流行し世界へ広がった「浮世絵」。そこからヒントを得て「もし浮世絵師がヨーロッパにいたら……？」というイメージを膨らませました。中央には浮世絵の革命児・写楽風の指揮者、そして歌舞いた装いの奏者たちで、真摯にかつ自由な心で音楽する喜びと、コンサートという非日常の「ハレ感」を表現しています。

海を越えて愛された浮世絵のように、時代や国境を越えて奏でられるクラシック音楽。その魅力を、これからたくさんの人に届けられる音楽祭を目指します。



*参考：イラストのポージング等は現存する浮世絵を基にしており、一部の浮世絵は『(公社)川崎・砂子の里資料館』の収蔵作品です。

参考作品 東洲斎写楽 三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛 (未収蔵) / 歌川豊国 六郷渡船図 (収蔵作品) / 歌川豊国 大師河原詣 (収蔵作品) / 歌川広重 名所風景 六郷の渡し (収蔵作品)

3 サマーミュージザ2025の注目ポイント

Point 1) 新時代の才能が台頭！各楽団シェフ級も大曲で競演

Point 2) 九州交響楽団が初登場！

Point 3) 家族向けオーケストラ公演を新設(4歳~)、恒例ジャズ、オルガン、バレエ公演も

Point 1) 新時代の才能が台頭！各楽団シェフ級も大曲で競演



写真左上から) 熊倉優・堀田力丸／小林資典・読売日本交響楽団／松本宗利音・飯島隆／太田弦・勝村祐紀／出口大地・hiro.pberg berlin／ジョナサン・ノット・K. MIURA／高関健／上岡敏之・武藤章／沼尻竜典／下野竜也・Shin Yamagishi／原田慶太楼・Masatoshi Yamashiro

2025年のサマーミュージザは、新時代の若きアーティストたちが台頭！特に指揮者陣に、次世代を切り拓くフレッシュな顔ぶれがずらりと並びました。本場ドイツの歌劇場で活躍を続ける熊倉優(7/30・東京都交響楽団)や小林資

典[初](7/31・読売日本交響楽団)、各地のオーケストラに引っ張りだこの新星・**松本宗利音**[初](8/4・NHK 交響楽団)、ハチャトゥリアン国際コンクールの覇者・**出口大地**(8/6・東京フィルハーモニー交響楽団)、九州交響楽団を牽引する若き首席指揮者・**太田弦**[初](8/7)といった新世代が、各オーケストラとともに創り出す音楽にどうぞご注目ください。

また各楽団のシェフ級指揮者による、重厚なプログラムも健在です。**ジョナサン・ノット**(7/26・東京交響楽団オープニング)の“言葉のない『指環』”、**高関健**のマーラー『巨人』(7/27)、**上岡敏之**(8/2・新日本フィルハーモニー交響楽団)のブルックナー7番、**沼尻竜典**(8/8・神奈川フィルハーモニー管弦楽団)のトゥランガリーラ交響曲などの大曲を披露、また**下野竜也**(8/9・日本フィルハーモニー交響楽団)、**原田慶太楼**(8/11・東京交響楽団フィナーレ)がこだわりの詰まった魅力的なプログラムをお届けします。

このほか、ソリストも人気ピアニストの**阪田知樹**(8/4・N響)、ヴィエニャフスキ国際コンクールの覇者・**前田妃奈**[初](8/6・東京フィル)、昨年も名演を聴かせた名手・**服部百音**(8/11・東響フィナーレ)をはじめ、**奥井紫麻**[初](7/30・都響)、**北村朋幹**(8/8・神奈川フィル)など注目の若手が続々登場、**小山実稚恵**(7/27・シティフィル)、**菊池洋子**(7/31・読響)、**宮田大**[初](8/9・日本フィル)などの深みを増すベテラン勢とともに華を添えます。

*[初]=サマーミュージア初登場、以下同

Point 2)「九州交響楽団」が初登場！

首都圏外のオーケストラを楽しめるのもサマーミュージアの魅力。2019年から始まった首都圏外からの参加楽団には、**九州交響楽団**[初]が首席指揮者・**太田弦**[初]とともにサマーミュージア初登場(8/7)。プログラムは、福岡・博多を代表する祭「博多どんたく」と「博多祇園山笠」からインスピレーションを得た「博多ラプソディ」を名刺代わりに、注目高まる若きソプラノ**高野百合絵**を迎えて『カルメン』抜粋、そしてカルメンのモチーフが現れるショスタコーヴィチの「交響曲第5番」。九州からの“熱風”をぜひホールで体感ください。



指揮者メッセージ

この度はサマーミュージアに参加させて頂けますことを嬉しく思っております。

今回は、昨年4月の私の就任定期演奏会でも取り上げたショスタコーヴィチの「交響曲第5番」を中心に、高野百合絵さんをソリストにお迎えしてこの交響曲と関連が深い「カルメン」の抜粋と、小出稚子さんが九響のために博多の祭をテーマに作曲して下さった「博多ラプソディ」を演奏します。

九響は福岡を拠点に九州で演奏していますので、関東圏では名前を聞くことはあっても、演奏を聴く機会はなかなか無いのではないのでしょうか。

手前味噌ですが熱い演奏をする良いオーケストラですので、是非この機会に九響の演奏をお聴き頂けると幸いです！

首席指揮者 太田 弦



© 勝村祐紀

【プロフィール】九州交響楽団

1953年創立。九州の音楽界をリードするプロのオーケストラとして、アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、天神でクラシック、名曲・午後のオーケストラ等の自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ファミリーコンサートなど、福岡県を中心に九州各地で年間約150回の演奏活動を行っている。2024年4月に首席指揮者に太田弦、ミュージック・アドバイザーに篠崎史紀が就任。これまでに福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。

[参考] これまでの首都圏外オーケストラ 参加状況

2017年7月23日	オーケストラ・アンサンブル金沢(特別参加) 主催:公益財団法人 石川県音楽文化振興事業団
2017年7月31日	PMF オーケストラ(特別参加) 主催:公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会/札幌市
2019年8月2日	PMF オーケストラ(特別参加) 主催:公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会/札幌市
2019年8月4日	仙台フィルハーモニー管弦楽団
2020年8月1日	群馬交響楽団
2021年7月25日	オーケストラ・アンサンブル金沢
2021年8月4日	京都市交響楽団
2022年8月5日	大阪フィルハーモニー交響楽団
2023年7月30日	山形交響楽団
2023年8月8日	日本センチュリー交響楽団
2024年8月3日	浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバル ワールドドリーム・ウインドオーケストラ
2024年8月5日	兵庫芸術文化センター管弦楽団
2025年8月7日	九州交響楽団

Point 3) 家族向けオーケストラ公演を新設(4歳~)、恒例ジャズ、オルガン、バレエ公演も

川崎北部エリアでの「出張サマーミュージザ@しんゆり！」は、昨年から幅広い世代がカジュアルに楽しめるコンサートへリニューアルしました。今季はしんゆりのラインアップに、夏休み子どもたちが気軽に楽しめるオーケストラ公演が新たに加わりました。パシフィックフィルハーモニア東京(8/9)と音楽監督・飯森範親による「みんなあつまれ！音の遊園地」は4歳以上から入場可能、『くるみ割り人形』や『威風堂々』第1番など、世界各国の名曲をお贈りします。また定番の名曲コンサートとして、東京交響楽団(8/3)と桂冠指揮者ユベール・スダーンが絢爛豪華な「展覧会の絵」と、神奈川出身の新進ピアニスト山縣美季[初]を迎えてモーツァルト最後のピアノ協奏曲、第27番をお届けします。

このほか、恒例企画も充実の内容が揃いました。「サマーナイト・ジャズ」(8/10)はジャズ部門ホールアドバイザーの宮本貴奈による特別企画。ジャズ、ポップスなど垣根を超えて活躍する宮本らしく、クロスオーバーでインターナショナルな実力派ミュージシャンが一堂に会する“夢の一夜”にご期待ください。

ミュージザが誇るオルガンを堪能いただく人気シリーズ「真夏のバッハ」(8/3)は、オルガニスト徳岡めぐみ[初]がソプラノ隠岐彩夏[初]などの声楽陣を迎えて J.S.バッハ×モーツァルトを組み合わせる個性的なプログラム。そしてホールアドバイザーの小川典子が開館当初からライフワークとして続けている子ども向け企画「イツツ・ア・ピアノワールド」(8/3)は、今年も子どもたちが舞台上で“全身で響きを感じる”体験をご用意してお待ちしております。

さらに川崎市内の2音楽大学公演も聴き逃せません。昭和音楽大学(8/3、指揮:田中祐子)は生誕150年のラヴェルを中心としたフランス・プログラム、洗足学園音楽大学は(7/29、指揮:キンボー・イシイ)毎年好評のバレエ・プログラムで『マ・メール・ロワ』『だったん人の踊り』などの名曲とともに目にも耳にも美しい舞台を創りあげます。

[本資料に関するお問合せ]

ミュージザ川崎シンフォニーホール 事業企画課 佐藤

Tel. 044-520-0100(代) / Email: press@kawasaki-sym-hall.jp

>> プレス資料ダウンロード <https://link.directcloud.jp/eKgYnO1Q3N>

パスワード: FSMK2025 (使用期限 2025/8/31 まで)

フェスタ■サマーミュージーザ

KAWASAKI 2025

各公演の聴きどころ

文：林田直樹(音楽ライター)

■7月26日(土) 東京交響楽団オープニングコンサート 音楽監督ラスト・シーズン！ ノットの“言葉のない指環”

東京交響楽団を黄金期へと導いた音楽監督ジョナサン・ノット。今回はいよいよワーグナー『ニーベルングの指環』のダイジェスト版がメイン。本来は「ラインの黄金」「ワルキューレ」「ジークフリート」「神々の黄昏」の4部作で上演には合計15時間を要する超大作を、約70分間へと凝縮した「言葉のない『指環』(マゼール編)」である。現代のファンタジー文学・映画・ゲームに影響を与えたこの音楽は、若い聴き手の心をもきっとつかむことだろう。1曲目のワーグナー『ローエングリン』第1幕への前奏曲は精妙な響きが耳を洗ってくれるし、続くベートーヴェンの8番は古典的構成美の名作で、ワーグナーとの対比は際立つに違いない。



■7月27日(日) 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 「皇帝」×「巨人」クラシックの大家たち

高関健を常任指揮者に迎えてから10年、そして楽団創立50周年という節目を迎えて、意欲的なプログラミングが目立つ東京シティ・フィル。今シーズン、マーラーは特に大切にしている作曲家で、若者を意識したサマーミュージーザで交響曲第1番を取り上げることに、深い意味が感じられる。『巨人』というタイトルで知られるこの作品で描かれているのは、思春期特有の苦悩と葛藤と喜びであり、自然と人間の深い結びつきにほかならない。前半で演奏されるベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番『皇帝』は、ダイナミックな箇所のみならず、たとえば第2楽章で小山実稚恵のピアノの精魂こめた弱音がどのような祈りの詩情を醸し出すかにも注目したい。



■7月29日(日) 洗足学園音楽大学 若き精鋭たちが舞うバレエ名曲選

ボロディン「だったん人の踊り」、ラヴェル「マ・メール・ロワ」などの名曲が、演奏のみならずバレエとともに上演されるのは貴重である。洗足学園は谷桃子バレエ団、東京シティ・バレエ団、牧阿佐美バレエ団と提携しており、若いダンサーたちがオーケストラと舞台上で互角に刺激しあいながら、芸術性の高い上演をきっと届けてくれることだろう。指揮はキンポー・イシイ。ベルリン・コーミッシェ・オーパー首席カペルマイスター、マクデブルグ歌劇場音楽総監督、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州立劇場音楽総監督での豊富な経験を持つ。舞台と音楽とのコラボレーションのセンスが、今回のバレエ公演でも生かされるに違いない。



■7月30日(水) 東京都交響楽団 心躍るメロディーとリズムの名曲集！

音の色彩感豊かなロシア音楽特集である。とりわけメインのストラヴィンスキー「火の鳥」組曲は、おとぎ話の世界そのもので、王女や魔法が出てくる音のスペクタクルは、オーケストラを聴くよこびを満喫させてくれる。熊倉優は作曲家としての修業をベースに持ち、N響でパーヴォ・ヤルヴィのもと、ハンブルク州立歌劇場でケント・ナガノのもとアシスタントを務め、ハノーファー州立歌劇場で第2カペルマイスターとして現場経験を重ねてきた気鋭。都響を指揮して、どんなカラフルな響きを作り出すのが楽しみ。グネーシン特別音楽学校で学びロシア・ピアノリズムの系譜を受け継ぐ奥井紫麻をソロに迎えたチャイコフスキーの協奏曲第1番もみずみずしい演奏になることだろう。



■7月31日(木) 読売日本交響楽団 華麗なるウィーン、黄金の響き

今年、生誕200年を迎えているヨハン・シュトラウス2世は、ウィーンを本拠に全ヨーロッパで活躍した19世紀最大のヒットメーカーだが、その楽曲は生で聴いてこそ、人を幸せにしてくれる特別な力を発揮する。小林資典は、ドルトムント市立歌劇場の音楽総監督代理兼第1カペルマイスターとしてもオペラやバレエの分野で実績を積んでおり、満を持して日本の音楽界にも登場し始めたところ。読響との相性も抜群だ。ドイツ・ロマン派の最後を象徴する作曲家リヒャルト・シュトラウスの名作オペラのエッセンスが詰め込まれた『ばらの騎士』組曲では、彼の劇場センスが発揮されることだろう。甘美な旋律とワルツに酔うひとときが楽しみである。



■8月2日(土) 新日本フィルハーモニー交響楽団

上岡渾身のブルックナー

2016年から2021年まで新日本フィル音楽監督を務めた上岡敏之が、サマーミュージアに久しぶりに帰ってくる。これは2019年以来5年ぶりになる。ザールランド州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール市立歌劇場インテンダント(総裁)、コペンハーゲン・フィル首席指揮者等を歴任し、現在はコペンハーゲン・フィル名誉指揮者など、ヨーロッパでの実績ある上岡にとって、ブルックナーの7番は得意の曲目。ミュージアの美しい音響とともに、さらなる進境を示す名演となることは間違いない。抒情的な旋律と豊かな静寂にあふれ、勇壮さも兼ね備えた7番は、最も親しみやすく、あの「銀河英雄伝説」にも使われたほど。クラシック初心者こそ、ぜひ飛び込んでほしい公演だ。



■8月3日(日)こどもフェスタ 2025 4歳から入場可能!

イツ・ア・ピアノワールド

こんなに子どもたちが楽しめるコンサートは滅多にない! ピアニスト小川典子による4歳以上にに向けた「イツ・ア・ピアノワールド」は、子どもたちにできるだけピアノの近くに座ってもらい、やさしい言葉で話しかけたり、質問コーナーを設けたりしながら、音楽的には「子どもたち相手だからこそ本気のプログラム」を展開します。たとえばラヴェル『鏡』より「悲しい鳥たち」は、子どもたちのみならず大人をも静寂の世界へと誘う素晴らしい選曲です。サティのバレエ音楽『本日休演』抜粋は、ユーモラスでおしゃれで可愛いし、エルガー『威風堂々』第1番のピアノ編曲版は、きっとみんなが笑顔で盛り上がる、素晴らしい時間になることでしょう。



■8月3日(日) 真夏のバッハX

歌とパイプオルガン 祈りの調べ

バッハの音楽思考の最も重要な基本となっていたのはオルガンである。モーツァルトはオルガンを「楽器の王」と呼んで、その音楽性の豊かさに敬意を払っていた。今年のサマーミュージアの「真夏のバッハ」は、そんなバッハとモーツァルトに焦点を当てて、オルガンのための名曲のみならず、歌手陣も参加しての『マタイ受難曲』や『レクイエム』なども抜粋で取り上げる。徳岡めぐみは2001年シュニットガー国際オルガンコンクールで優勝、02年には北ドイツ放送(NDR)音楽賞国際オルガンコンクールで第2位を受賞するなど、屈指の実力派。定評あるミュージアのオルガンからどのような音色を引き出すのか、そして声との美しいハーモニーも楽しみである。



■8月3日(日) 出張サマーミュージア@しんゆり！ 東京交響楽団

会場:昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ

巨匠ステージで聴く、モーツァルト&展覧会の絵

東京交響楽団桂冠指揮者で前音楽監督のユベール・スダーンが、いまから 20 年以上前に、初めて登場したときに巻き起こしたふわりとした新風、オケの響きがガラリと変わった衝撃をいまでも忘れられない人は多いはずだ。そんなスダーンが新百合ヶ丘(昭和音大テアトロ・ジューリオ・ショウワ)に初登場する。メインはムソルグスキー『展覧会の絵』。モーツァルトやシューベルトを得意とするイメージのスダーンだが、実はフランス物も得意。ラヴェル編曲のオーケストレーションを素材に、どんな洗練された響きの魔法を発揮するのか？ 曲のイメージが全く変わるかもしれない。実力派ピアニスト山縣美季を迎えるモーツァルトの協奏曲第 27 番も楽しみだ。



■8月4日(月)NHK 交響楽団

今聴きたい！宗利音&阪田のラプソディー・イン・ブルー

最も熱い注目の公演のひとつ。松本宗利音は、名付け親に世界的指揮者カール・シューリヒト夫人を持ち、すでに国内のオケの多くに定期的に客演している気鋭の若手。4 月からは大阪フィル指揮者にも就任するが、いよいよこのサマーミュージアで NHK 交響楽団に初登場する。屈指の実力派としてファンも急増中のピアニスト阪田知樹は「ラプソディー・イン・ブルー」に意欲満々とのこと。二人が N 響を相手に全力でぶつかる白熱の演奏が期待できそうだ。メインは松本の強い意向でメンデルスゾーンの第 3 番『スコットランド』となった。作曲者自らの意志で生前最後に出版されたこの交響曲の重要性は強調してもしきれない。若い才能のきらめきが楽しみである。



■8月5日(火) 昭和音楽大学

若き感性がつむぐ、色鮮やかなフランスの風

昭和音楽大学のオーケストラが、毎年サマーミュージアですごいことになっている。プロ・オーケストラ顔負けの充実ぶりで、玄人筋をうならせる快演を繰り広げているのだ。そして今年はコロナ禍に突入した 2020 年に予定していたプログラムを再現できることになった。田中祐子は、近年オペラ指揮者としての進境が著しく、特に池辺晋一郎や三木稔ら日本人作曲家のオペラでも着々と実績を挙げている。今回はモーツァルト『パリ』、ラヴェル『ダフニスとクロエ』第 2 組曲、「ボレロ」など、パリで学んだ田中の本領を存分に発揮できるプログラム。ちょうど今年にはラヴェルの生誕 150 年。その洗練されたオーケストラ美学を、実演で味わう絶好の機会となる。



■8月6日(水) 東京フィルハーモニー交響楽団

ほとばしるヴィエニャフスキ、駆け抜けるベートー

これはいかにも、若さのほとばしるような、熱いコンサートになりそうだ。出口大地は、関西学院大学法学部を出たのちに東京音大指揮科、ハンス・アイスラー音楽大学で学んだ経歴の持ち主で、2021年にアルメニアのハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門で優勝して以来、またたく間に国内外での活躍の場が広がった人である。相性の良い東京フィルを指揮してのサマーミュージア公演では、まず前半で、2022年にヴィエニャフスキ国際コンクールで優勝の前田妃奈をソリストに迎え、彼女がコンクールで弾いた難曲、ヴィエニャフスキの2番で協演する。メインはベートーヴェンの7番。この超人気曲をどうみずみずしく聴かせるのかが楽しみである。



■8月7日(木) 九州交響楽団

熱狂のシンフォニック★ナイト

毎年、全国各地から有力オーケストラを招聘するのもサマーミュージアの楽しみのひとつ。今年は、いま破竹の進撃を続ける若手、太田弦を首席指揮者に抜擢した九州交響楽団が登場。注目の作曲家、小出稚子が博多どんたくのメロディを盛り込んだ「博多ラプソディ」は、ひねりの加わった一筋縄ではいかない楽しい編曲で、抒情的な美しさも楽しめる。ソプラノだがメゾの深みも併せ持つ注目の歌手、高野百合絵とのビゼーのオペラ『カルメン』抜粋も聴き逃さない。メインはショスタコーヴィチの交響曲第5番。昨年4月の首席指揮者就任記念の定期演奏会で成功した太田の得意曲だけに、九響も絶対の自信をもってミュージアに乗り込んでくるに違いない。



■8月8日(金) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

宇宙を揺るがす愛の讃歌「トゥランガリーラ交響曲」

今年から「ミュージア川崎シリーズ」を新たにスタートさせた神奈川フィルは、音楽監督の沼尻竜典が昔から得意としているメシアン「トゥランガリーラ交響曲」を指揮し、地元オーケストラとしてのプライドを賭けてサマーミュージアに登場する(ちなみに神奈川フィルにとってこの曲は初挑戦となる)。ソリストはこの曲にかけては右に出る者のいない原田節(オンド・マルトノ)と、若手では現代作品にめっぽう強い北村朋幹(ピアノ)だから、まさに最強の布陣と言っていいだろう。愛と官能の世界を宇宙的なスケールで展開する、20世紀フランスが生んだこの究極の交響曲は、実演で体験してこそ輝くような響きの真価が味わえる。ぜひとも駆け付けたい。



■8月9日(土) 日本フィルハーモニー交響楽団 下野セレクトの本命プログラム！

今年のサマーミュージザでの日本フィルは、いま国内外のオケから引く手あまたで、膨大なレパートリーを拡大し続けている指揮者・下野竜也による、こだわりのプログラムを披露する。小山清茂「管弦楽のための鄙歌(ひなうた)第2番」は、夏に浴衣姿で聴きたくなるお祭り気分の1曲。NHK大河ドラマの最後に放送される「べらぼう紀行」で演奏している人気チェリストの宮田大を迎えてのロマンの香り高いサン＝サーンスの協奏曲第1番も、下野セクションである。メインのドヴォルザークは、下野にとってのライフワークともいえる重要な作曲家であり、交響曲第8番は民謡の要素が詰まった楽しさ満点の円熟作。家族や友人と楽しむには最良のプログラムだ。



■8月9日(土) 出張サマーミュージザ@しんゆり！[4歳から入場可能！]パシフィックフィルハーモニア東京 みんなあつまれ！音の遊園地

新百合ヶ丘周辺のファミリーには、またとない朗報！ サマーミュージザのしんゆり公演では初めての試みとして、小学校低学年から中学年を主に対象として、「みんな集まれ！音の遊園地」と題した4歳以上OKのコンサートが開催される。「モルダウ」「くるみ割り人形」「威風堂々」など、これだけは子どもには聴かせておきたい基本の名曲ばかり。音楽監督の飯森範親が指揮するパシフィック・フィルハーモニア東京は、いま首都圏のクラシック界に新風を送り込んでいる話題のオーケストラ。ヴァイオリニスト鈴木舞が超絶技巧を披露する「カルメン幻想曲」「ツィガーヌ」ともども、楽しい進行と熱い演奏で子どもたちの心をつかんでくれることだろう。



■8月10日(日)サマーナイト・ジャズ

トップジャズプレイヤーとゲストシンガーによるジャズ&ポップス 夢の一夜

今年の「サマーナイト・ジャズ」は、国際的に活躍するピアニスト・歌手・作編曲家で、ミュージザ川崎のホールアドバイザー(ジャズ部門)でもある宮本貴奈が2年ぶりに再登場。王道のジャズにとどまらない、ポップスやソウルなどの楽曲をアコースティックな音響の中で披露する。ヴォーカリストは二人。ハイトーンの甘い声と美しい日本語が素晴らしいクリス・ハート、ソウルフルな歌唱力が人気の福原みほが、自身のオリジナル曲やスタンダードジャズなどを歌う。色気あるサクソ馬場智章、実力派ベース小川晋平、最年少のスーパードラマー川口千里によるセッションともども、夏の夜にふさわしい極上のエンターテインメントを繰り広げてくれるだろう。



■8月11日(月・祝) 東京交響楽団 フィナーレコンサート

慶太楼が贈る、不滅の作曲家たち

激動と変化の20世紀で、過去を見つめながら未来への道筋を作ろうとした3人の作曲家の作品が並ぶ。今年生誕100年の芥川也寸志の映画音楽による「八甲田山」は、昭和の歌謡曲を思わせる旋律にあふれ、古い日本の闇へのまなざしを感じさせる。ハンガリーを中心に民謡を広く集めて新しい音楽語法を編み出したバルトークの詩情豊かな「ヴァイオリン協奏曲第2番」では、服部百音のソロにも注目。デンマークの民俗音楽から多くを得ながら明晰で力強い音楽を書いたニールセンの代表作、交響曲第4番「不滅」はフィナーレを締めくくるにふさわしい。東京交響楽団正指揮者・原田慶太楼ならではの、知的に構成された、これは魅力的なプログラムだ。

